

## 近代政治思想の始まり

### 2013 年追試

問 2 下線部 **b** に関して、次のア～ウは自然権ないし自然法について考察した思想家の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 

31
----

ア ホッブズは、人間は生まれながらにして自己保存の欲望をもち、その欲望を追求する自然権を有していると考えた。

イ ベンサムは、個人の生命・自由の保障は、理性の声である自然法に基づくものであると考えた。

ウ グロティウスは、人間本性に由来する普遍的原理としての自然法と、国家間の取り決めである国際法は対立関係にあると考えた。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	31	④	2

2011 年追試

問 2 様々な自然法思想の説明として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 

24
----

- ① トマス・アクィナスは，神の定めた永遠の法のうち，人間理性によって捉えられたものが自然法であると主張した。
- ② ロックは，人間はもともと理性的な存在なので，自然状態であっても自然法の支配が実現しているとした。
- ③ ホッブズは，人間は自己保存を確かなものとするために，理性の声に従い自然権を譲渡して国家を設立すると考えた。
- ④ ハイデッガーは，人間は自らの死の可能性を自覚することを通じて，神の定めた自然法を確認し得ると説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	24	④	3

2007 年本試

問 1 文章中の  ・  に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

ヨーロッパには古来、慣習法や実定法といった法律を自然法に照らして吟味する、という考え方があった。自然法は、法律とは異なり、時代や地域で変わることのない普遍的な法であり、中世には、神の法が人間に示されたものだと理解されていた。しかし近代に入ると、自然法は次第に、神の意志とは独立に考えられるようになっていった。自然法は人間の本性である  や社会性に、あるいは自己保存の欲求に基づくとみなされたのである。例えば「近代自然法の父」グロティウスは、民族を超えて通用する人類共通の法を探究し、  を説いている。

- ① 理性 ② 感性 ③ 言語 ④ 意志  
 ① 民主主義 ② 国際平和 ③ 絶対主義 ④ 世界精神

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	22	①	2
第 4 問	問 1	23	②	2

2001 年本試

問 4 社会契約説をとなえた思想家たちに共通する主張として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

14
----

- ① 政治社会や国家が成立する以前は、自由で平等な個人間の闘争状態が支配していた。
- ② 社会や政治の制度は、自由で平等な個人間で交わされる取り決めに由来するものと考えられる。
- ③ 個人は自由で平等であり、各人の生得的な権利は絶対に譲り渡すことのできないものである。
- ④ 政府が権力を濫用して、自由で平等な個人の信託に背いた場合には、国民は政府に抵抗することができる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	14	②	3